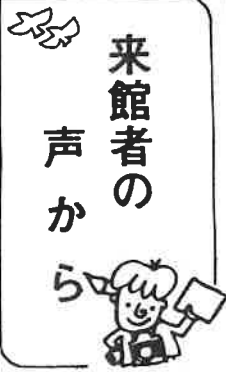




オートバイに乗って来たらしい青年が一人、小さな子どもを連れて若い家族一組、静かな館を訪ねている。私の息子にも来させたいと思った(大島和子)。

* 東京生活八年を経験し、その間いつでも行けるという気持ちで、ついに一度も訪れることのなかった福竜丸をスケッチする(六月十六日)



た、この展示館。昨年より鹿児島へ移り住んでから、どうしても行きたいという思いが募り、今日一年ぶりに上京して、やっと希望を実現しました。

現在、核時代に生きねばならないことは、たまらなく恐ろしい。この恐ろしさと、久保山さんのような人を二度と生み出さないぞという思いとが、今私の中で入りまじっている。今日は、平和との関わり、の、原点を見つめ直すことができました(八尾)。

第五福竜丸を見学して 和歌山県中辺路中学校感想文集より

私は最初、何とも思わずに展示館に入りました。普通の漁船に比べて、とても小さい福竜丸でしたが、それでも高さ十五mあり、大きかったです。船を見ながら、写真パネルや資料を見ました。被爆の話はたくさん聞きますが、実物を見たことがない私にとって、この展示館におかれているものは、すべて驚くものばかりでした。

この被災で亡くなられた人達は死んでも死にきれない気持ちだと思います。私達は、この亡くなられた人達の死を、ただ、人が死ん

編集後記

▼ハンガリー生まれの報道写真家ロバート・キャパの「戦争と平和展」が六月、銀座で開かれた。キャパは一九五四年四月一三日に来日し、ライフ社の緊急取材の要請のため五月二日インドシナに向かい、五月二十五日、取材中地雷に触れ、四十歳の若さで死亡した。

▼「帝国ホテルのバーで英字新聞をみていたら、原子灰の焼津がまだまだに大きな記事になっているので、矢もたてもたれまらず、世界の話題となった焼津の漁師を写す」と……キャパは、日本の第一印象で、こう語っている。「キョウトもナラも自分が見たい。しかし、こう話している間にも新しい船が帰って来るかもしれない」と、予定変更の焼津行であった。キャパが滞日中撮影したネガは全部で二一八一枚。その中の一点「傷痕軍人と少年」が、今回の写真展に展示されていた。

▼「戦争」を撮り続けながら、人間に向けるキャパの目は常に暖かい。いつの日か、キャパの「焼津」が公開されることを願う。(は)

福竜丸だより

— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

● 100万人参観者運動を!

'84年6月来館者数	5,196名
通算1ヵ月平均来館者数	4,948名
当月1日平均来館者数	200名
通算来館者数	479,920名

ビキニ事件と科学者

小川 岩雄

ビキニ環礁(かんしょう)での米国の水爆実験で、第五福竜丸が被災してから早くも三十年の歳月が流れた。このいわゆるビキニ事件と、それに引続く米ソの激しい核実験競争による北半球全域の放射能汚染は国民を不安と恐怖と憤激に駆り立て、日本の原水爆禁止運動の爆発的な高揚の契機となったことはよく知られている。そしてこの運動は大きな国際的反響を呼び起こし、核兵器と核軍備競争の脅威について人々の関心を高めるのに役立った。もし「広島・長崎」を「核時代の原点」と呼ぶならば、「ビキニ」は世界的な「反核運動の発火点」といってもよいであろう。

科学者にとってもまた、ビキニ事件は特異な共通体験と教訓、さらには社会的開眼をさえももたらした重要なできごとであった。当時多くの科学者は、国民の切実な要求にこたえて全く自発的に核実験による放射性降下物(「死の灰」)の分析や定量、その影響の評価などを一せいに開始し、その成果は次々と新聞やラジオで国民に伝えられた。地球規模の放射能汚染が進行するという空前の事態の中で、国民はこぞってその実態や危険性についての正確な知識と情報を渴望し、科学者の一言一句に真剣に耳を傾けた。科学者と国民の距離がこれほど近付いたことは、それまでに一度もなかったのではなからうか。

研究のあり方を教え、社会的責任の重さを自覚させることにもなったように思われる。

もうひとつ重要なことは、この事件が国民や国内の科学者ばかりでなく、世界各国の科学者に強い衝撃を与え、人類がいよいよ核時代の新局面を迎えたことを痛感させたことである。とくに事件の翌年(一九五五年)に発表された有名な「ラッセル・アインシュタイン宣言」は、水爆の出現によって全人類の存亡が問われることになったとの認識の上に、東西の対立を越えた科学者の会議と戦争廃絶への協力を呼びかけた。これを受けて発足したのが科学者のパウ・オッシュン会議であり、その活動は年々盛況を加え、今日に及んでいる。

爆心から一六〇キロ(ほぼ東京・静岡間)も離れた地点で、放射性降下物だけのために福竜丸の全乗組員23人が激しい急性放射能症を示し、一人が亡くなったという事実こそは、今後の核戦争の広域被害の姿を垣間(かいま)見せたものであり、その生き証人である第五福竜丸の船体保存に科学者がとりわけ熱心なのは、決して理由のないことではない。(立教大学理学部教授・平和協会評議員)

展示館開設八周年記念祝賀会開く 関係者集い例年以上の盛会

六月十一日、日比谷松本楼で第五福竜丸展示館開設八周年記念祝賀会が関係者約五〇人の参加を得て開かれました。美濃部亮吉元都知事、元第五福竜丸乗組員の大石又七氏はじめ福竜丸全乗組員の追跡調査をした毎日新聞静岡支局の記者など初めての参加の方も多く、例年以上の盛会となりました。参加者には、一年間の活動と第五福竜丸とビキニ事件に関する新聞等の主な報道をまとめた資料が配られ



ました。第八年度の来館者数も十一万人を越えたこと、今後は船の修理、資料室建設が急務であることなど、こんだんし、核戦争への危機感が

船体修理の調査報告書完成 工事期間は一年、全面的補修へ

黒い厚紙の表紙に金箔の背文字も鮮やかな『第五福竜丸船体調査報告書』—B5判タイプ印刷、図表の綴込みをいれ厚さも2センチあまりの堂々たる報告書が完成。六月六日、東京都はじめ関係者に調査を担当した文化財建造物保存技術協会から提出され、岩崎友吉氏ら専門家も交え報告会がおこなわれた。二カ月余に及ぶ綿密な測定測量を集大成したもので、調査の詳細書から修理方針、修理内容書、仕様書、工事費積算書、各種図表等から成り、受取った都関係者もこんなに詳細で立派な報告書ははじめてと喜びつつびっくり。工事予定期間も一年、規模も当初見積りを大幅に上廻るもので、一

高まっている状況の中で、展示館の果す役割の重要性が再確認され、ビキニ被災三〇周年にふさわしい会となりました。また、祝賀会終了後ひきつづき松本楼で評議員会が開かれ、資料室建設、記念シンポジウムなどについて討議されました。

59年度第一回の 展示替おわる

六月末、展示館の59年度第一回の展示替がおこなわれた。今回新しく企画されたのは十九点。「放射性降下物、死の灰」の恐怖」と題する組パネルで、そのひろがりや放射線の生物・人体への影響などを写真・イラスト・図表でこまかく解説、一メートル四方の水爆

●新刊紹介
三宅泰雄著
「戦争と平和と科学者と」
平和と科学者—II 平和に寄与する道II 原子力と平和問題III 平和とりの守り手、ある科学者の歩んだ道—わたしの回想録、ほか
水曜社 四六判三千元
三宅泰雄著
「かえればビキニ—原水爆禁止運動の原点を考える」
「死の灰とたたかう科学者」(岩波新書)の増補改訂
水曜社四六判千二百円
長谷川潮著
「死の海をゆく—第五福竜丸物語」
文研出版A5判千二百円

の火球のカラー写真から、福竜丸乗組員、ロンゲラップの住民の障害、食物連鎖、人体図、アメリカのアトミックソルジャーの障害など、死の灰、の恐ろしさを示すものばかり。
東京大学の安斎育郎氏の監修をうけ、写真家の桐生さんイラストレーターの高山さんなどの協力を受け完成した。

夢の島とユーカリと第五福竜丸と 公園緑地事務所・塩野健一郎氏に聞く

展示館横の空地に新たにユーカリの植樹が始められた。計画では七千本。ユーカリの葉はコアラの「主食」。今秋、オーストラリアからやって来るコアラと共に夢の島が今、話題を呼んでいる。十年前ユーカリを初めて夢の島に植樹したのは、第五福竜丸の船体補修にも力を尽されている東京都南部公園緑地事務所の塩野健一郎さん。夢の島とユーカリと第五福竜丸——塩野さんとかかわりは深い。

昭和四十六年、当時塩野さんが勤務していた伊豆大島公園事務所に、「コアラを提供してもよい」という、オーストラリアから申し出があった。伊豆大島ではすでにユーカリの木があった。だが、この時の申し出は飼育の条件を考りよして断念する。

塩野さんはまもなく、夢の島の



夢の島のユーカリ

整備を任せられる。都は江東区から「ゴミ公害を我慢して埋め立てを認めたのだから、公園を早く作って欲しい」とせき立てられていた。塩風が強く、メタンガスが出る夢の島で、すでに幾種類もの試験植樹が行なわれていたが、結果はかんばしくなかった。塩野さんは、今までの常識と違ったところに解決の道があるでないか」と、塩風に弱いが再生力の強いユーカリを選んだ。また、ユーカリが日本人に不人気な木であることから、引き取り手のない苗木があることを耳にする。四十九年四月、夢の島に一万六千本のユーカリが植えられた。そこには、いつの日かコアラが来ることへの期待が託されていた。一方そのころ第五福竜丸はまだへドロの海の中にあつた。「たいんな船だな」と福竜丸を見て塩野

さんは思った。その後、福竜丸の陸上への引上げを任せられた時も「どうせもうなら、太平洋横断をした堀江謙一氏のヨットの方が」と。

「陸上への引上げの時船体はぶよぶよのお豆腐のようで、こわさないで上げるのは、大へんな仕事でした」——塩野さんは、仕事を担当した落合組と仕事をすすめてゆくうち、福竜丸にだんだん愛情を感じていった。

みんなにいやがられたゴミの埋め立地、引き取り手のなかったユーカリ、沈められようとした福竜丸。「生のままゴミを埋めるということは土に還元できるものもあり、大事なことだと思ふ。都会には姿がよい上品な木が多いが、ユーカリのような大木があることを子どもたちに見せてあげたい。福竜丸のもっている大事な面がわかるにつれ、保存の大切さを感じるようになった」と塩野さん。

オーストラリアのユーカリは大へん美しいという。オーストラリアでは今、イギリスの核実験の被害が明るみに出てきているが、美しいユーカリの故郷であつてほし

ビキニ事件三〇周年 核兵器禁止をねがう 科学者フォーラム

▼日時 七月三〇日(月)午前10時〜午後5時半

▼場所 東京神田・学士会館 二一〇号室

▼プログラム

1. ビキニ事件をふりかえって (10時〜12時半)
熊取敏之(放射線医学総合研究所所長)、加藤地三(昭和女子大教授) 両氏。
2. ビキニ事件の歴史的な意味 (1時半〜2時45分)
栗野 鳳氏(日本平和学会会長)
3. ビキニ事件と今日の科学者の課題 (3時〜5時半)
田中 正(京大大学院理学部教授)、大北 威(広島大学原爆放射能医学研究所教授) 両氏。

▼参加費 二千元

参加を希望される方は必ず二十七日までに、はがきで科学者フォーラム事務局(杉並区高円寺北四一―二九―二二―一七、三宅泰雄気付166)へ申し込んで下さい。
共催II第五福竜丸平和協会